

原子人間②

(1) 「えーいくるか。原子棒をうけてみよ。ウハハハ」怪人ガンマアがひとあばれすれば、フクメンたちはバタリバタリとたおされます。ガンマアはこれでよいと、ミドリに

(2) 「ロボット太郎はドコにいるのでしょうか。アナタ知りませんか」「ええ、知っています。ロボットはデンキジシャクにすいつけられてうごけないです。デンキを切つてテイデンにすれば、うごいてここへきます」

(3) 「それでは」と、ガンマアはデンキ室へいってスイッチを切ります。パチン。スーツとデンキがこのそくつ一帯にわたつてきれでくらくなりました。

(4) 「ロンロンロン、しめたー」ロボット太郎は自由になつて、ジシャクからはなれてとび出しました。こちらは

(5) ブラックバードです。「原子人間になつて光にのつてにげようと思つたら、急に電気が消えてしまつた。こまつたなア。仕方がない、ヒコーキでにげることにしよう」と、そくつをすてて

(6) ヒューン、ブルルーン。と、ヒコーキでとび立ちましたが、しばらくいつてヒヨイとうしろの座席を見ると「あーッ」

(7) 「ロンロン、今日は。ボク、うごけるようになつたから君のアトをずーっとついて来たのだよ」と、いつのまにかロボット太郎が来ていました。「こいつめ…よーしヒコーキからほうり出してやる」

(8) 「ロンロンロン。ほうり出されてたまるものか。さア来い」「ウーン」ふたりがあらそうちに、そうじゅうする者がいなくなつたヒコーキは、まつさかさまに

(9) ヒューン、ドブーン。と、海の中へおちてしましました。ロボット太郎はヒコーキからぬけ出して、

(10) 「これでブラックバードはもう助かるまい。原子人間でも人間は死ぬ。僕はロボットだから死ないよ。サヨナラー」と、ガンマアや小人ハカセのいるところへともどつていきます。

原子人間⑪

(11) 「只今、ブラックバードはやつつけましたよ」「おう、ごくろうごくろう。よくやつてくれた。これでもう悪い人はいなくなつた」「それではどうじや、みんなわしの空とぶキューで日本へかえらないか」「は、ありがとうございます」

(12) 一同は小人ハカセの空とぶキューにのりました。ヒュークルルルーン。キューは大空をとんで日本へかえります。

(原子人間全巻のおわり)